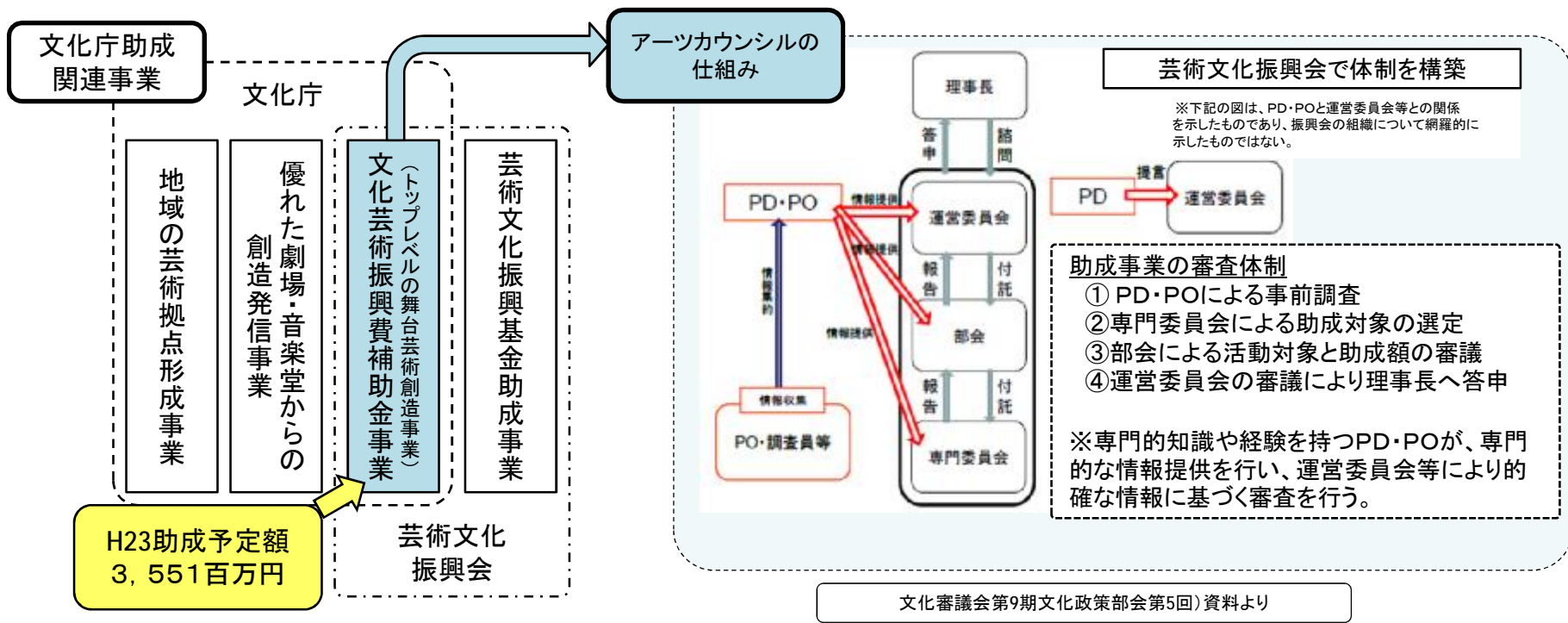


文化庁 日本版アーツカウンシルの施行的導入

文化芸術活動への支援策をより効果的かつ適切なものとするため、専門家を活用した審査・評価等の仕組み（日本版アーツカウンシル）の本格的導入に向けた取組を一層推進する。

H24予算案 86百万円 (H23予算 52百万円)

【対象分野】 4分野（音楽、舞踊、演劇、伝統芸能・大衆芸能）
【事業内容例】
 ①事業に係る基本的な方向性の提示、②専門家を活用した審査の実施、③審査結果の公表等、
 ④事後評価の実施、⑤調査研究の実施、⑥事業の検証及び改善等

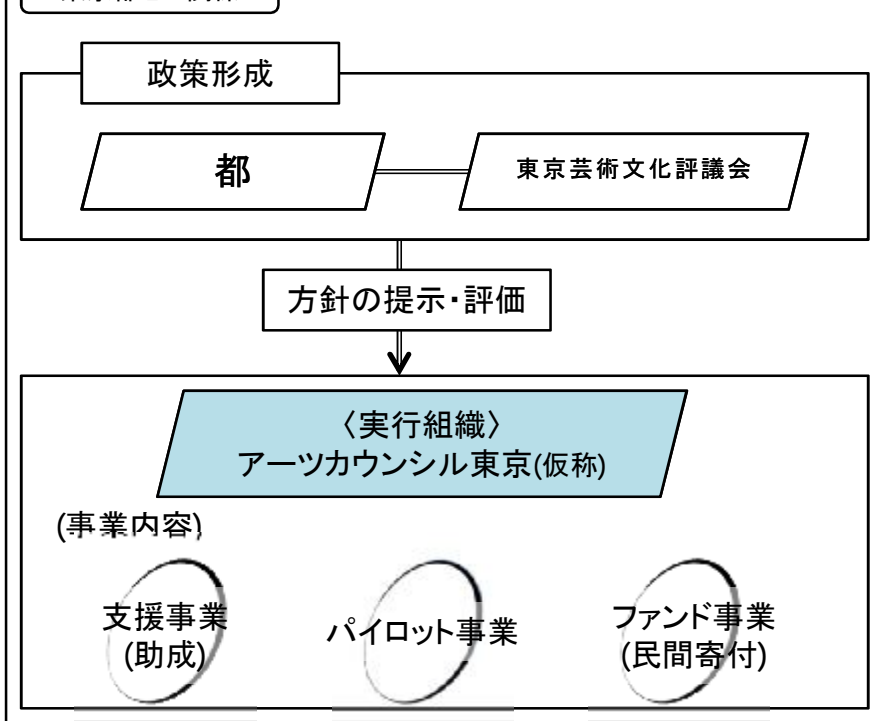


東京都 アーツカウンシル東京(案)の概要

■設立の趣旨

- 東京を国際都市にふさわしい個性豊かな文化を創造する都市にする
- 創造性に満ち、潤いのある地域社会の構築を目指す

東京都との関係



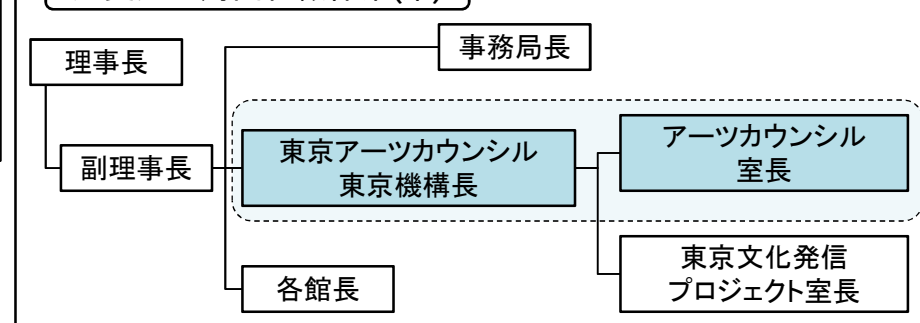
■アーツカウンシル東京の特徴

- 専門家を活用した文化を創る新たな仕組み
 - ・民間の有能な人材が事業を目利き
 - ・複数年助成の検討
 - 東京の文化を支え、持続させていく戦略
 - ・国内外の文化のハブとして戦略的に情報発信
 - ・次世代につなぐ人材の育成
 - ・ファンド(民間寄付)の検討
 - 文化と産業を融合させた映画・アニメ分野などの取組
 - ・アジアにも開かれた人材育成事業を展開
 - ・若手クリエイター等の現場感覚の取り入れ
- ※と庁内の各局を横断した体制を構築

■スケジュール

- 平成24年度中
公益財団法人東京都歴史文化財団内に設置
- 平成25年度中
ファンドの設置

歴史文化財団組織体系(案)

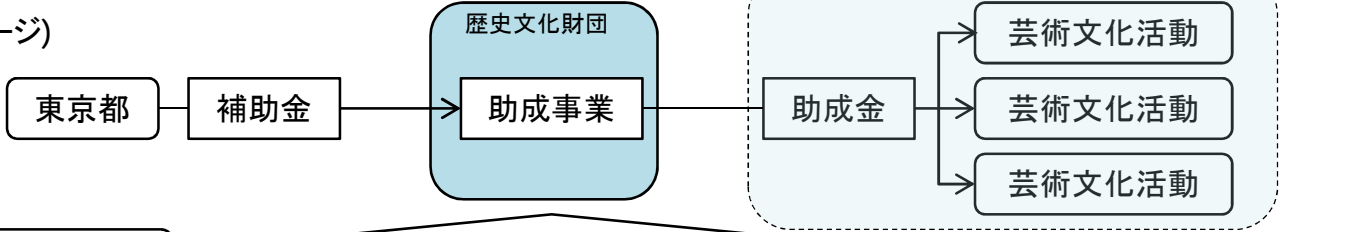


東京都からの提供資料による

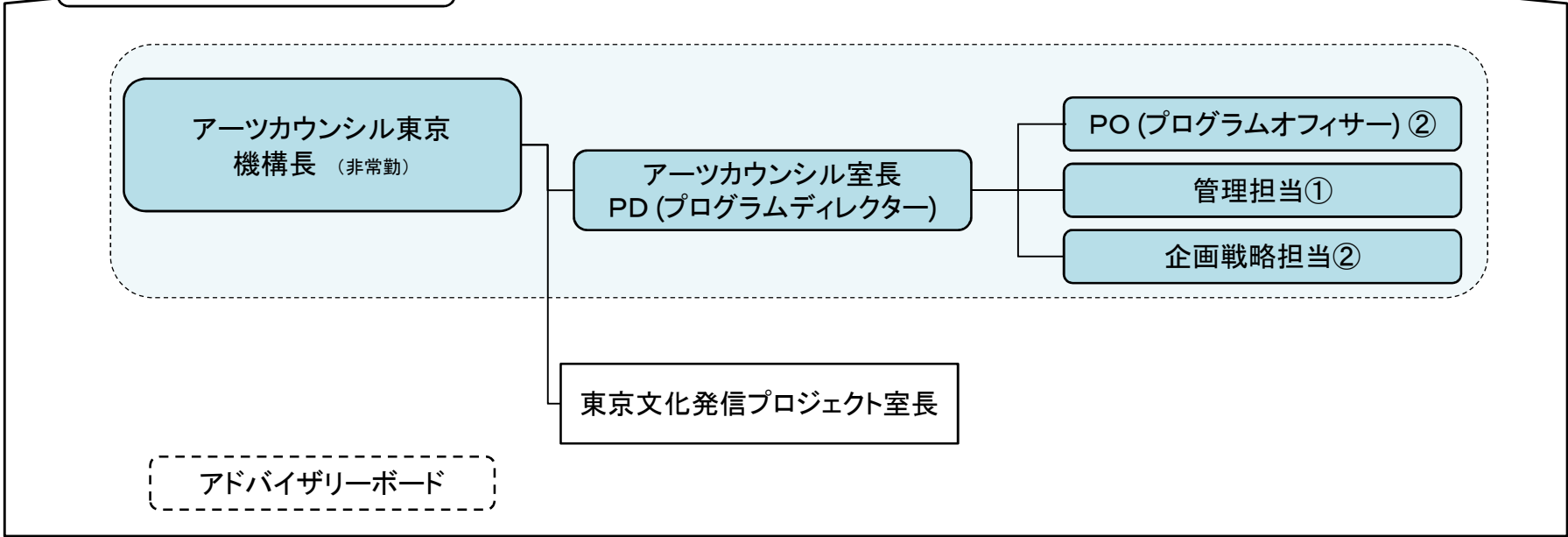
アーツカウンシル東京（仮称）助成事業概要

- 概要
- 「東京芸術文化創造発信事業助成」をアーツカウンシルに移管
 - アーツカウンシルは都の補助金を原資として、助成事業を実施

(実施イメージ)



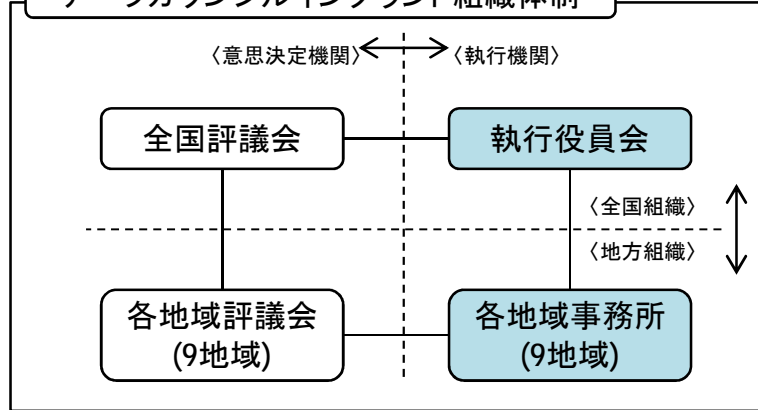
アーツカウンシル東京(仮称)



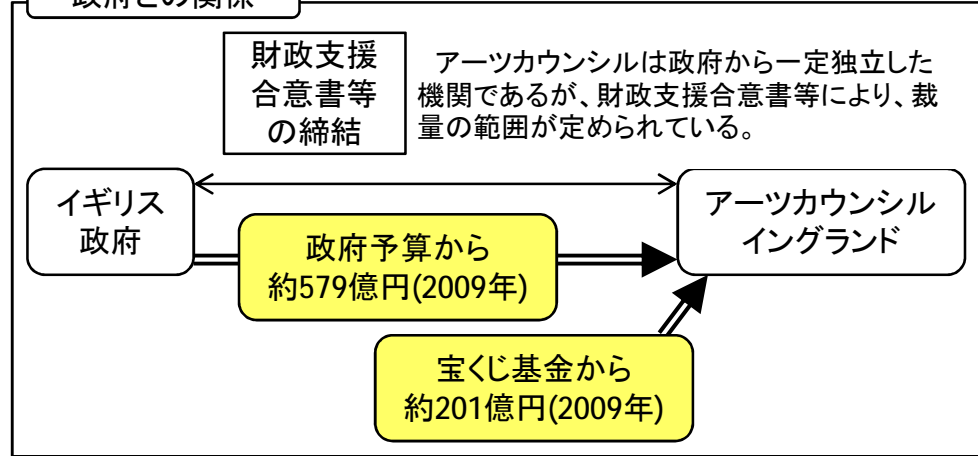
東京都からの提供資料による

イギリス型アーツカウンシル

アーツカウンシルイングランド組織体制



政府との関係



評議会の体制

全国評議会
 構成員(計16名)
 会長(1名)
 地域評議会会長(9名)
 各分野の専門家(6名)
委員会
 文化政策、芸術投資、
 業務・監査、報酬の4つ

地域評議会
 構成員(各地15名弱で構成)
 専門家および地方議員等
 の地域の代表者による

評議会の役割

組織の意思決定
 政府と一定の距離を保ち
 独自の意思決定によって
 運営する

助成事業の最終決定を担う
 助成額80万ポンド以上
 →全国評議会が決定
 助成額80万ポンド未満
 →地域評議会が決定

執行機関による審査

- ① 芸術助成センターによる受付
- ② 地域事務所スタッフによる一次審査
- ③ マネージメントチームによる一次審査の再検討と二次審査
(エリア執行役員と地域事務所の所長及び管理職で構成)
- ④ 助成先の推薦リストの作成

資金配分の調整

- ① 各エリアのマネジementチームと本部事務局の管理職クラスとの議論に基づき資金配分のバランスを見ながら助成対象を選定(地域事務所と本部による交渉)

助成事業の一例